

医科学教育部

I	教育の水準		教育 4-2
II	質の向上度		教育 4-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成 21 年度の文部科学省組織的な大学院教育改革推進プログラム（大学院 GP）「医療系クラスターによる組織的大学院教育」の採択を踏まえ、他教育部と連携した「感染・免疫クラスター」をはじめとする 6 クラスターにより、分野横断的な教育体制となっている。
- 所属組織や専門領域の異なる学生や教員等が成果発表や情報交換を行うため、Tokushima Bioscience Retreat（小豆島リトリート）（年 1 回）をはじめとした領域横断的教育活動を実施している。
- 平成 24 年度の文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの採択により、国公立の 11 大学がそれぞれの個性、特色及び得意分野を活かし相互乗入れ授業や共通の e-learning を導入するなど、高度医療人を育成する教育体制を整備している。また、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）には、毎年平均 7.5 名が、がん治療認定医、核医学専門医をはじめとした資格を取得している。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 医科学教育部を含む 5 教育部で大学院共通カリキュラム科目を共同開講しており、授業科目のうち 7 科目を e-learning 化している。また、パソコンやタブレット端末等から講義の視聴を可能とするなど、社会人学生が時間や場所の制約を受けずに学習できる体制を構築しており、平成 27 年度の e-learning 履修者数は 214 名となっている。
- 平成 23 年度の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」終了以降も学術協定校との交流を継続し、統合医療学際教育共同プログラムの留学生受入数は平成 22 年度の 1 名から平成 27 年度の 5 名となっている。また、プログラムでは留学生を対象に、英語による 26 科目を共同開講している。

以上の状況等及び医科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間の修了生の学位取得率は、63.2%から86.5%の間を推移している。
- 修士課程の学生の研究成果について、学会発表数は平成21年度の5件から平成27年度の27件へ増加している。
- 博士課程の学生の研究成果について、平成21年度と平成27年度を比較すると、論文発表数は98件から190件、学会発表数は471件から735件、学外組織からの受賞件数は10件から14件へそれぞれ増加している。また、平成27年度には学生が筆頭著者の論文が海外の生化学、遺伝学、分子生物学（一般）分野のトップジャーナルに掲載されている。
- 第2MD-PhDコースの学生の論文について、掲載誌のインパクトファクター（IF）は第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の最大9.7から第2期中期目標期間の最大11.5へ上昇している。

観点2－2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の修士課程の就職希望者は、1名から4名の間を推移しており、平成22年度を除き就職率は100%となっている。また、進学者は3名程度となっている。博士課程の就職希望者は1名から5名の間を推移しており、希望者全員が就職している。

以上の状況等及び医科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 大学院 GP に採択された「医療系クラスターによる組織的大学院教育」により 6 クラスターを形成し、各講座単位での教育に加えてクラスター単位で学生教育を行う分野横断的な教育体制となっている。
- 第2期中期目標期間に e-learning 科目は5科目から7科目へ増加している。また、タブレット端末での視聴を可能にしたこと等により、e-learning 科目の履修者数は平成21年度の188名から平成27年度の214名へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 博士課程の学生の研究成果について、平成21年度と平成27年度を比較すると、論文発表数は98件から190件、学会発表数は471件から735件へそれぞれ増加している。
- MD-PhD コースの学生が筆頭著者の論文について、掲載誌の IF は、第1期中期目標期間の最大9.7から第2期中期目標期間の最大11.5へ上昇している。
- 修了生の学位取得率は、平成19年度から平成21年度の平均73.2%から平成27年度の80%へ上昇している。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。